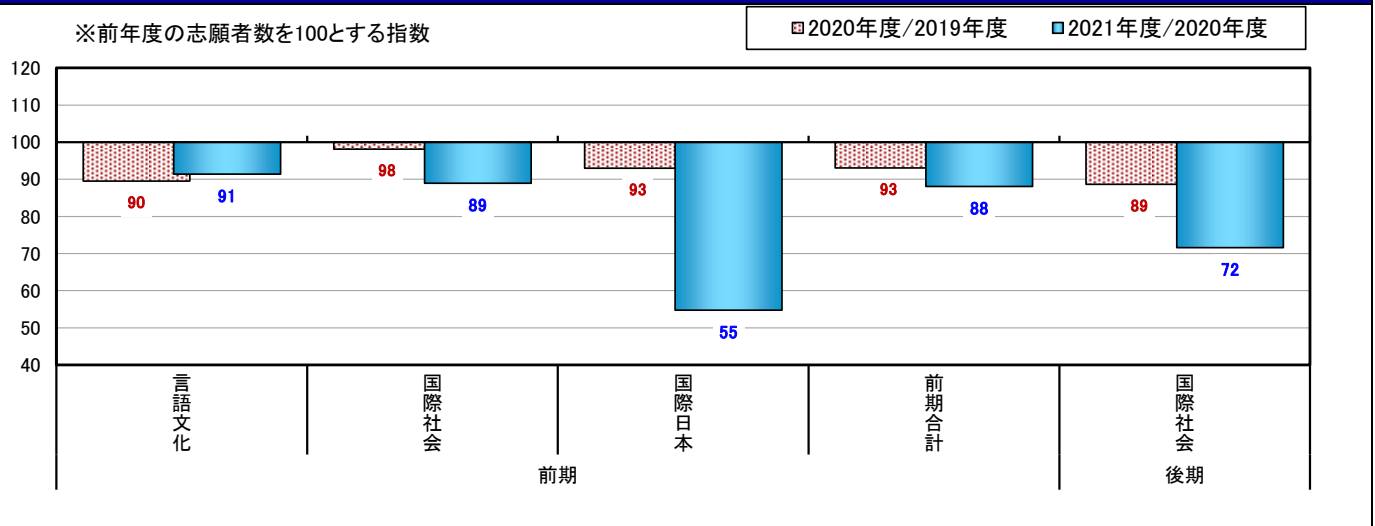


2021 年度入試状況分析【国公立大】

東京外国語大：コロナ禍の影響で、前期、後期ともに減少 前期：-201人 後期：-412人



入試変更点	<p>コロナ禍による変更：受験料の改定と言語文化<前>、国際社会<前>の「英語スピーキングテスト(BCT-S)」の導入を1年延期</p> <p>提出書類に追加…「高校時代に取り組んだことや将来に向けての意欲についての自己評価」、「高校時代に主体性を持って取り組んだこと」をパソコン等で入力</p> <p>※入力した情報は調査書とともに合否ラインに志願者が同点で並んだ場合に用いる</p> <p>個別：試験時間帯…10:00～16:30→13:00～17:45、英語の試験時間…150分→90分 ※コロナ禍による変更</p> <p>国際社会<後>…英→論(英語の課題文を読み、日本語で解答)</p>
--------------	--

COMMENT ※ ()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍の影響による系統への人気低下を反映して、前期は201人(88)の減少で、募集人員が579人となった2019年度以降では2年連続減少。前期合計の志願倍率は前年度3倍を下回ったが、2.9倍→2.6倍とさらにダウン。国際社会のみ募集の後期は、412人(72)の大幅減少で、募集人員が56人となった2019年度以降では2年連続減少。志願倍率は25.9倍→18.6倍にダウンし、志願倍率は20倍を下回った。

- <前期日程>
- 言語文化(91)は減少で、募集人員が290人となった2019年度以降では2年連続減少。志願倍率も3.1倍→2.8倍にダウン。専攻言語別では、欧州系言語合計(ロシア語含む)(81)は大幅減少で、募集人員が161人となった2019年度以降では2年連続減少、志願倍率も2.9倍→2.3倍にダウン。アジア・中東系言語合計(102)は前年度大幅減少の反動は小さく、微増だった。
 - 国際社会(89)は減少で、募集人員が254人となった2019年度以降では2年連続減少。専攻地域別では、欧米地域合計(ロシア含む)(81)は大幅減少で、募集人員が121人となった2019年度以降では2年連続減少。これら以外の地域合計(99)は前年度並。
 - 新設3年目の国際日本(55)は、大幅減少。志願倍率も3.0倍→1.7倍にダウン。